

## 報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和5年10月18日 至 令和5年10月20日	福島県 矢吹町 茨城県 境町	令和5年度文教産業常任委員会行政調査

令和5年10月23日

報 告 者

職氏名 川南町議会議員

児玉 助壽



復命事項（1. 経過、2. 感想並びに意見）

### 1 経過

10月18日 AM7:15 川南町役場出発、PM2:50 矢吹町役場に文教産業常任委員会6名、議会事務局書記1名、合計7名無事到着し、歓迎（セレモニー）を受け、PM15:10から矢吹小学校と矢吹中学校にて小学校のゼロエネルギー化、建物の耐久性について中学校の機能性等について視察研修を実施する。

### 2 感想並びに意見

#### ①小学校の研修について

矢吹小学校は東日本大震災以前に耐震工事を実施していたため、大きな被害をまぬがれましたが、震災後H26.10.27 1期工事、H27.9.15 2期工事 事業費総額10億7,494万2,510円の大型改修工事を行い、「H24年度」（スーパーエコスクール実証事業）①防災拠点の機能強化②教育環境の機能的改善・資質向上③クリーンで安全なエネルギー利用を推進する福島発のエコスクール3つのテーマを三位一体の基本方針とし推進していました。

大改修工事の感想として、校舎内外ともに木質県産材が十分に利活用されコンクリートの冷たさを感じさせない暖かみがあり、日光の取入れが最高に良い暖かみと明るさが抜群の最高の教育環境の印象を与える校舎でありました。小学校の児童数推移について

翌 10月19日 AM9:00 複合施設KOKOTTO研修

矢吹町複合施設「愛称：KOKOTTO」（ここと）は、令和2年10月にオープンし「公民館機能」、「図書館機能」、「子育て世代活動支援機能」、「観光交流機能」等の機能を複合化した施設で、新たな生涯学習の拠点となり、中心市街地に新たな賑わいを創出する矢吹町のシンボル施設でありました。さしづめ川南町の図書館文化ホールと福祉センターの機能を合わせ持った施設であり、川南町に無い「公民館機能」「観光交流機能」を合わせ持った復興財源で贅沢の限りを尽くした施設でうらやましいかぎりでありました。

引き続き AM10:40 未来くるやぶき（ミラクルやぶき）

矢吹町屋内外運動場、未来（みら）くるやぶき施設は、東日本大震災及び東京電力第一原子力発電所事故の発生後、子どもが屋外で十分に遊ぶや運動が減少し、運動量や体力の低下が見受けられたことから、矢吹町屋内外運動場（未来くるやぶき）は、子どもの運動機会の確保と乳幼児から小学低学年及び保護者が放射能の影響を気にせず安心して遊べる遊び場の提供を目的に放射能汚染防止対策補助事業補助率100%の財源を基に川南町福祉センターこどもんの何倍もの施設機能を持つ贅の限り尽くした広大な施設で、未来くるやぶきの愛称の意味は矢吹町すてきな未来がくるように子供達が未来に向けてがんばるようにと（当時）町内小学4年生が名付けたそうです。小中学校、KOKOTTO、未来くるやぶき等、子供、子育て施設の整備は十分に充足している様に見えるがその割に既婚者の生涯出生数は1.4人と沖縄県はもとより本町よりも少ないばかりか全国平均にも劣っており、出生数1.4人の原因を分析、課題解決し、出生数増加に努めるとともに費用対効果を検証すべきと思う。

PM1:00 公共交通推進事業、行き活きタクシーは、ワンコイン（500円）で町内を移動できるよう町が高齢者の移動支援を目的に、令和2年4月より民間タクシー利用料金の一部助成を実施し、好評を得ているとの説明であった。川南町においても、買物、病院等難民が増加しており、同僚議員においては、そうした高齢者の要望を一般質問で訴えているところであり、矢吹町の実施事業を参考に費用対効果を検証し、実現に向け取り組むべきと思う。

引き続き、企業誘致促進事業の取組みについて研修を実施する。矢吹町の企業誘致促進事業①国道、高速道、空港等への良アクセスなどの恵まれた地の利を活かした②年2回以上のトップセールス（東京、大阪、名古屋、北海道）訪問活動矢吹町における企業誘致活動の特徴 町独自の優遇策③既存企業への支援策 町事業者への訪問活動（御用聞き）「やぶき経営懇話会」の設置、主に製造業、運輸業者で構成（42事業所）視察研修や懇話会等を実施し、過去5年間で延べ14社投資総額94億400万円の進出があり、14社のうち12社が既存企業の設備増強等であり、町外からの新規進出は2社であるが、投資額からして固定資産税の増額が見込め、町財政運営に好影響を与えるものと思

とから推進していくべきと思われた。

今回の行政調査を委員長の個人的な総評すると学ぶべき点が数多くあったが過密スケジュールで深ぼり探求する余裕がなかった事が悔やまれる。特に自給飼料作物研修において感じたのは私だけだったのだろうか、この件については執行部及び畜産農家、議会もだが深ぼり探求し、自給飼料作物生産加工等に関係する従事者全ての生計ができる様なシステムを構築するためにも改めて前述した関係者が塚原ファームに訪れじっくり研修探求されその是非を判断していただければと思っているのが今回本件の視察研修を強く要望した自分の研修結果を総括した意見であります。

20日PM6:00役場帰庁し研修解散。

## 報 告 書

### 出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和5年10月18日 至 令和5年10月20日	福島県 矢吹町 茨城県 境町	令和5年度文教産業常任委員会行政調査

令和 5年 10月 26日

報 告 者

職氏名 川南町議会議員 中瀬 修



### 復命事項(1. 経過、2. 感想並びに意見)

#### 1 経過

##### 【1日目】

7:15 川南町役場出発

9:30 宮崎空港→11:50 伊丹空港(乗換)発→福島空港 12:55 着

14:30 矢吹町役場 2階会議室にて、対面式の歓迎式典。

##### 【出席者】

矢吹町議会議長 角田 秀明 様、矢吹町長 蛭田 泰昭 様、矢吹町町議会 富永 創造 様、  
矢吹町副町長 小松 健太郎 様、矢吹町教育委員会教育長 大杉 和規 様、  
矢吹町議会事務局氏家局長

14:50 終了、移動

15:00 矢吹小学校視察:担当課 矢吹町教育委員会 教育振興課

・矢吹町小学校の説明

・矢吹小学校大規模改修、ゼロエネルギー化について

16:10 矢吹中学校視察

・矢吹中学校の機能性等について

17:00 宿舎移動

18:30 交流会

【2日目】

8:50 ホテル出発

9:00 研修会 場所/複合施設 KOKOTTO

① 複合施設 KOKOTTO

担当課:都市整備課、生涯学習課

② 未来くるやぶき

担当課:子育て支援課

③ 施設見学

11:00 矢吹町議会議場視察他

12:00 昼食

13:00 研修会

① 公共交通事業について

担当課:まちづくり推進課

② 企業誘致促進事業について

担当課:商工観光課

14:00 研修終了

15:12 矢吹駅発 → 15:30 新白河駅着 → 東北新幹線新白河駅(乗換)15:50 →  
小山駅 16:32 着 → JR 宇都宮線 → 古河駅 17:01 着

17:20 宿泊先到着

【3日目】

8:30 ホテル出発 タクシー

9:00 (株)塚原ファーム(茨城県境町)着

9:15 研修・視察

① 農場視察

② 資料貯蔵施設視察

③ 研修、質疑応答

10:50 研修終了

11:00 移動 タクシー

14:10 羽田空港着

17:10 福岡空港着

2 感想並びに意見

## 矢吹町について

「さわやかな田園のまち。やぶき」がキャッチフレーズ。

日本三大開拓地の一つ。高速道路、新幹線、福島空港等への交通アクセスに恵まれた立地条件が魅力。幹線道路としては、国道4号線、あぶくま高原自動車道等が通る。東京より北へ約215km、福島県の中通り南部に位置する。年間平均気温は約12度、年間降水量は約770mmという気候であり、町の面積の半分以上が農地で形成されている。観光資源は、五本松の松並木、三十三観音などの史跡、大池公園、あゆり温泉等。農産物は、米、トマトなど。大木代吉本店の日本酒、地元産のグーズベリージャム、白ウリときゅうりの酒粕漬け「さわやかいいなづけ」が有名。

○人口:17,051人(男性:8,478人/女性:8,573人)

○世帯数:6,341世帯

## 研修報告

### 1. 矢吹小学校について

○福島県矢吹町:4つの小学校(中畑、三神、矢吹、善郷)  
1つの中学校

○矢吹町立矢吹小

- ・町内中心部に位置
- ・明治6年創立、本年150周年を迎える。
- ・S56年矢吹町立善郷小学校が新設、生徒の約半数が移動、19学級となる。
- ・S57年3月木造校舎を取り壊し、鉄筋3階建ての校舎を新築。
- ・H22年校舎耐震工事完了。翌年3月東日本大震災発生、矢吹町では震度6弱の揺れ。校舎、体育館、給食室等被災。
- ・H28年11月矢吹小大規模改修竣工。

○主な大規模改修の内容

- ・工事費総額1,074,942,510円  
(実施設計54,427,830円+工事費965,340,720円+工事管理費55,173,960円)
- ・断熱改修(断熱材新設、二重ガラス)による快適性の向上
- ・建物躯体の長寿命化
- ・教室配置(2室→1室化、小教室等の新設)  
※折り戸を採用、合同授業や個別授業等多岐に渡る授業が可能。
- ・内装木質化、美装化による学習環境の向上  
※木質を十分に使用した明るい教室。
- ・福島県産木材を使用。補助金。  
※開放的なスペース。コンピューター室と共に学校の中心となる。

※廊下空間を拡張

※学年ごとに色分けされたカラフルサインパネルを設置。

※冬季・夏季にエアコンを効率的に使用するための大きな建具を設置。

※トイレ改修(節水型便器、換気扇他)、トイレは乾式、バリアフリー。台数も精査して設置。

※アルコープ(ふれあい)空間を設け、児童の居場所作りを行う。

- ・屋上防水全面更新
- ・太陽光発電システム設置によるランニングコスト低減
- ・エネルギーの可視化
- ・LED照明等

○令和5年度児童数 179名(1年/18名、2年/36名、3年/32名、4年/30名、5年/25名、6年/29名、たんぽぽ学級/5名、ひまわり学級/4名)

○教職員 深谷 麻紀校長以下 27名の組織

○学校の教育方針 一人ひとりの個性を尊重し、豊かな人間性や社会性を育むこと。

○校舎 3階建て、ユニバーサルデザインを最大限活用。

福島県産材を存分に活用。

太陽光発電装置を設置。福島県初の文部科学省補助事業の「スーパーエコスクール実証事業」の採択を受けた。

発電容量90Kwの太陽光パネルが設置。

発電された電気エネルギーで、エコな教育環境を整えている。

○タブレット学習

- ・ロイロノート:自分の考えをまとめ、児童同士の意見交換が可能。
- ・すららドリル:自分のペースで学習ができる
- ・教員の指導技術の差、負担増の先生もいる。
- ・実施から2年、総合的評価の時期。検証し効果判定が必要。

○児童減少

- ・生徒数は減少傾向。
- ・H2年度1,497名からR2年度900名と30年間約4割減少。
- ・R6年度860名がR11年度728名。矢吹小は24名減。

○震災の影響

- ・公共施設等の被害:町内940箇所 被害額5,085,282千円
- ・学校教育施設被害:9箇所 被害額175,000千円
- 壁等の損壊、グラウンドの亀裂・地盤沈下、器具の落下・転倒

### <感想>

矢吹小学校は、子ども達が安心安全に学習できるように、ハード面、ソフト面双方から充実した環境であったと思う。老朽化した小学校は、新築と思わせるような大規模改修(耐震強化)とエコクリーンエネルギーを導入した先進的施設であった。また、県産材を多く取り入れ、木が目に入ることによって温かみを実感でき、落ち着ける雰囲気を作られていたと思う。建物は3階建てであるが、エレベーターが設置してあり、体にハンディキャップのある方も利用できるバリアフリー化された施設であった。トイレも整備され、人数に応じた数のトイレが設置されていた。

校庭(運動場)地下には、災害時に活用できるように100 m<sup>3</sup>の水槽が設置してあり、常に循環させながら飲料水を確保しているとのことだった。東日本大震災の教訓からこの設備を設置するに至ったようだ。

教室や図書室等の施設、トイレ等に関しても、福島県産木材が使用され、目線に配慮された環境とゼロエネルギーを可視化しクリーンで安全なエネルギー利用を推進するエコスクールを目指す取り組みが素晴らしいと思う。学習面でもタブレット学習の導入、図書室の充実など教育環境が整えられていることを強く感じた。児童への配慮として、子ども達の居場所を作るためにふれあい空間の活用が素晴らしいアイデアだと感じた。東日本大震災から復旧復興するための礎が矢吹小学校に存在し、教職員と地域の方々、保護者が子ども達をしっかりと支えている印象を強く感じた。

## 2. 矢吹町立矢吹中学校

### <概要>

- ・S40年、矢吹・三神・中畑の3中学校が統合。
- ・S43年矢吹中学校が発足。
- ・H21年「第5次矢吹町まちづくり総合計画」の主要事業に位置づけられる。
- ・次代を担う町の宝である子ども達のために改築を決定。
- ・H22年2月体育館完成、3月11日午前中に卒業式が挙行、午後東日本震災が発生。それ以降、避難所となる。

○学校の教育目標「志を高く持ち、学び・磨き・鍛え続ける生徒」

○在籍生徒数 467名(男子223名、女子244名)

○教職員 小野里 高広 校長、以下45名

○部活動 17団体(運動系14、文科系3)

○矢吹中学校の生徒数と学級数の推移

・H2年 865名、22学級 → R2年 450名、15学級

・R5年度 467名、14学級

・R11年度 422名(予定)

○建物は、中庭を囲むように普通教室、特別教室、校務センターが配置され、中心部に図



書室、コンピューター室が配置されている。体育館、武道場、屋内プールはいずれもスケールが大きい。エコクリーンを意識した作りとして、トイレ水に雨水を活用、太陽光発電、備蓄システムを整備され、災害時は前記したように避難所として活用される。校庭は、陸上 400 mトラックが入るほどの広大なグラウンド。

まず、矢吹中学校のスケールの大きさに驚いた。大学のキャンパスをイメージしてしまうようなメインアプローチと中庭ステージ。地形を活かした建物の配置は、その大きさを更に助長するように思えた。生徒が伸び伸びと更に逞しく成長していくにふさわしい建物と思えた。2011年3月11日、震災によって午前中に卒業式を終えた体育館は、数時間後には地域の避難場所となったそうである。強固に建てられた建物に被害はなく、地域の方々が避難生活をしばらく続けられたようだ。

ソフト面では、ICT 教育を進めていきながら、ロイロノート、AI ドリルを活用しながら、個々の能力を引き上げているそうである。メリット、デメリットを今後精査しながら検証を進めるとの報告があった。

## 2 日目

### 1. 複合施設(愛称:KOKOTTO)にて研修会

#### ① 複合施設について

- ・矢吹町中心市街地のほぼ中心部に位置する。JR矢吹駅からも近い。旧奥州道路(国道4号線)に面している。東日本大震災からの復旧復興のシンボル。
- ・キャッチフレーズは、「集い・学び・遊び・育む フロンティア広場」
- ・請負金額:1,405,901,200 円
- ・補助金:621,480,000 円(補助率:44.2%)
- ・敷地面積:3,608 m<sup>2</sup> 建設面積:2,151 m<sup>2</sup> 延べ面積:3,004 m<sup>2</sup>
- ・鉄骨造、一部木造、2階建て
- ・施設の機能
  - 公民館機能～交流の場、企画展の開催、町民活動情報発信の場。  
KOKOTTO ホール:200名収容
  - 図書館機能～木造、採光で明るい雰囲気、「本の森」をイメージ。  
読書通帳があり、貸出履歴が把握できる。
  - 子育て世代活動支援機能～一時預かり、子育て世代の活動支援。  
矢吹町内外利用者多数。
  - 観光交流機能～屋台蔵(大屋台)が収納され、観光の呼び水となる。

#### ② 未来くるやぶきについて

- ・東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故の発生後、子どもが屋外で遊ぶ機会が減少し、運動量や体力低下が見られたことから、子どもの運動機会の確保と放射能の影響を気にせず安心して遊べる場の提供を目的として建てられる。

・全体事業費:601,818,000 円

補助金:子供元気復活交付金 10/10 518,238,000 円

・屋内運動場 フットサルコート

・利用料 無料 保護者同伴(1 人につき児童 3 人まで)

・維持管理費(指定管理料金):27,185,379 円/R5 年度

・平成 27 年のオープン以来、年間約 5 万人の利用がある。

・矢吹駅東口直ぐ、利便性から町外の利用者が多数。

### ③ KOKOTTO施設見学

## 2. 未来くるやぶき施設見学

### ① 施設見学

遊具が豊富に揃った開放感のある屋内運動場、天候を気にせずに思いっきり体を動かすことができる。

屋外のフットサルコートでも青空の下、のびのびと遊ぶことができる。

安全に配慮された遊具は、特に小さな子どもの利用に安心感を持たせられることに繋がる。

## 3. 矢吹町役場

### ① 議場見学

## 4. 昼食

## 5. 複合施設KOKOTTOにて研修会

### ① 公共交通推進事業について

#### ○行き生きタクシー利用料金助成事業

・民間タクシー「行き生きタクシー利用料金助成事業」(H31 年 2 月～)

・令和 2 年 4 月から本格運用へ移行。月 10 回までの一乗車当たり自己負担額 500 円。試験運用中は、月 8 回迄、自己負担額 800 円。アンケート結果を踏まえ、より利用しやすい形へ改善された。

・登録者数 500 人超

・利用件数、助成金額も大幅に増加。

#### ○コミュニティバス

##### < 事業概要 >

・矢吹町の町内における公共交通の活性化

・町民の利便性の向上

・効率的な公共交通体系づくり

・R4 年 12 月から実証実験開始

- ・4 路線／利用料金：無料
- ・マイクロバスからコンパクトなバスに変更

○実績

<アンケート>

- ・町内 50 歳以上 3,000 人(無作為抽出)に実施。
- ・回答は、1,180 人(回収率 39.3%)
- ・回答者の 77%の方が存在を認知。
- ・当該バスについては、肯定的意見が多い
- ・一方で、停留所が遠い、利用したい時間にバスが来ない。などの意見有。

② 矢吹町地域公共交通計画の策定について

1 策定の背景、目的

- ・高齢化社会に向けた日常生活の利便性の増進を図るための公共交通を検討。
- ・平成 30 年に「矢吹町公共交通ネットワーク検討協議会」を設置、矢吹町公共交通ネットワーク推進計画が策定。

<展望と課題>

- ・公共交通分野における機動的な政策の展開を図る。
- ・近年のモータリゼーションの進展
- ・人口減少の本格化に伴う公共交通サービスの需要の縮小
- ・新型コロナウイルスによるライフスタイルの変化により、公共交通を取り巻く状況が厳しさを増す。
- ・住民が町中心部への買い物や医療機関への通院などの生活を維持するための移動需要。

2 計画に位置付けている主な新規事業

○AI 型オンデマンドバス

- ・アンケートに上がった使いたい時間にバスが来ない、停留所が遠いなどの意見を AI を導入し、解決の糸口を目指す。
- ・スクールバス、少年団の送迎も今後の検討内容。

○利用者の利便性向上に向けた新たなツールの導入促進。

- ・IC カード・Maas の導入。
- ・運行状況システム
- ・公共交通関連データの利活用促進によるスマートシティ推進。

○自動運転バスの導入検討

③ 企業誘致促進事業について

1) 恵まれた地の利を活かす

- ・関東都市圏、仙台市からも 200km 圏内

※2024 問題にも対応可

- ・国道 4 号、東北自動車道、あぶくま高原道路矢吹 IC、アクセス好条件
- ・鉄道(在来線、新幹線)、空港に近い

## 2) 企業誘致活動の特徴

- ・年 2 回のトップセールス実施(関東・中部・関西・北海道等)
- ・町内事業所への訪問活動
  - ※事業拡張、追加投資等情報収集、土地等の相談
- ・町独自の優遇支援策
  - ※「進出準備奨励金」・・・町外からの新規進出企業限定。
  - ※「企業立地奨励金」
  - ※合併処理浄化槽設置に対する補助

## 3) 既存企業への支援策

- ・町内事業所への訪問活動
  - ※御用聞き・・・事業所周辺の道路脇の草刈りやカーブミラーの設置等
  - ・やぶき経営懇話会の設置・・・42 事業所
  - ※ビジネスマッチングによる「チームやぶき」設立
    - 水素関連産業に新規参入を目指す

## 4) 課題

- ・企業誘致を進める一方、土地が不足。
- ・若年層人口の減少による生産人口数が減少。

## <2 日目の感想>

2 日目は、複合施設 KOKOTTO、未来くるやぶきでの研修と視察、町議会議場の見学を行った。複合施設 KOKOTTO は、公民館機能として交流の場となり、文化面での企画展の開催、町民活動情報発信の場として活用されていた。KOKOTTO ホールには、200 名収容できるホールが完備され、客席、舞台が可動式で様々な用途に対応可能なホールであった。図書館は、2 階に配置されており、木を多く使用し採光も多く取り入れられ、明るい雰囲気の特徴のようであった。「本の森」をイメージしていて、世代ごとにわかりやすい配置が印象的であった。図書の貸出方法の一つに読書通帳というシステムがあり、銀行の通帳システムと同様で、読書通帳に貸出履歴が印字され、過去に借りた本が把握できるようになっていた。子どもだけでなく大人も楽しめる図書館であった。子育て世代活動支援機能は、一時預かり、子育て世代の活動支援の場になっており、常駐するスタッフの優しさに包まれた対応が魅力的であった。矢吹町内だけでなく、町外からも多数利用されている状況であった。観光交流機能として、屋台蔵(大屋台)が建物内に収納され、歴史と文化を見事に観光資源として活用していた。屋台の大きさに度肝を抜かされた。

未来くるやぶきは、屋内型運動施設と人工芝の屋外運動施設の両面で、多くの利用者に運動を楽しめる施設として提供していた。利用料金が無料ということもあり、更には、JR 矢吹駅東口から徒歩 1 分という好条件の場所も人気の要因だろう。視察中も多数の親子が利用していた。来館された母親に質問すると、「とてもありがたい施設。夏場の暑さで外で遊ばせられない時もここがあるので安心して遊ばせられる。安全にも配慮され子供と一緒に体を動かすことができるので運動不足解消ができてありがたい。結婚後、子育てを考慮して移住した。最高の環境に感謝。」と答えてくれた。

地域公共交通計画の策定については、「行き活きタクシー」がとても印象的であった。ワンコイン(500 円)で町内を移動できるシステムで、高齢者の移動支援を目的に令和 2 年 4 月より民間タクシーの利用料金の一部を助成している。対象者は、70 歳以上。1 回あたり 500 円、月に 10 回まで利用可能。

コミュニティバスは、乗車料金無料でどの世代も利用可能であった。運行曜日が設定され、町内 4 ルートのコースが設定されていた。利用したい曜日、時間に乗車できない、バス停までが遠いなど、解決していかなければならない課題があるようであった。これは、わが町も同様であり、解決するには少し時間のかかる課題にも思えた。今後は、AI を活用したオンデマンドバスを導入し、住民の意見に寄り添う考えも高い評価に思えた。近い将来、運転手不足も考えられるために、人材確保と並行しながら自動運転バスを導入することも検討していた。今後、免許返納をされる方々が、一層多くなることが予測される中で、上記のような課題は川南町も同様にある。様々な知恵を出し合い、事業成立につなげていく必要があるのではないかと考える。

最後に、企業誘致促進事業については、矢吹町の恵まれた地の利を活かすことを最大のセールスポイントとしていた。東京都(関東都市圏)や仙台市からも 200km 圏内とアクセスにも問題がなく、社会的に取り上げられている物流・運送業界の 2024 問題にも対応可能な立地にある。国道 4 号、東北自動車道、あぶくま高原道路矢吹 IC とアクセスも好条件で、輸送に必要不可欠な鉄道(在来線、新幹線)、空港にも近い。うらやましい限りであるが、川南町も可能性ゼロではないので、与えられた環境を最大限に活かす取り組みが必要であろうと思う。

企業誘致だけに時間を割いていない取り組みや考え方にも感銘した。既存企業への支援策として、町内事業所への訪問活動を行い、いわゆる御用聞きをすることで、かゆいところにも手を届かせながら、既存企業との信頼関係を強く持っていく姿勢が感じられた。事業所周辺の道路脇の草刈りやカーブミラーの設置等とても喜ばれているようだ。

また、やぶき経営懇話会を設置し、町内に起業した 42 事業所が月 1 回会合を開き、その中で生まれる企業間のビジネスマッチングによって、「チームやぶき」が設立され、新時代に向けた産業への取り組みが始まったようだ。水素関連産業に新規参入を目指すとの報告があった。

課題もあった。企業誘致を進める一方で企業を誘致するための広い土地が不足していた。今後、用地取得を目指しながら地域住民からの情報も頼りに用地を早期に取得することも考えているようであった。働き手を確保して行く上でも、地元の光南高校を軸に県内の高校にも

出向き、矢吹町で働く人材を確保するために、企業と協力しているようであった。若年層人口の減少は、日本の大きな課題、生産人口数の減少をいかに食い止めていくかが大きな課題となるのではないか。

### 3 日目

(株)塚原牧場 茨城県境町

- ① 牧場・飼料庫視察
- ② 研修

【キーワード:こだわり】

#### 1) 原種にこだわる

- ・中国太湖豚系の原種豚
- ・最高の豚肉

#### 2) 餌にこだわる

- ・自社セレクト
- ・トウモロコシは、現在 50 トンの収穫
- ・トウモロコシを収穫後、自社工場にて乾燥、袋詰、自社倉庫で保管
- ・自社工場で粉碎、混合→農場タンクへ
- ・その他(パスタ麺の端)
- ・新鮮な大麦・小麦・米・トウモロコシ等を配合、10 種類の餌を混ぜ合わせる
- ・国内産 60%
- ・110 日未満(1~50kg)と種豚の飼料は、配合飼料メーカーに頼るものがある。
- ・ポストハーベスト(防カビ・防虫剤)のない餌を提供

#### 3) 肉質にこだわる

- ・長期飼育(10 か月)、通常養豚の約 2 倍
- ・不飽和脂肪酸の多い融点の低い肉質

#### 4) アニマルウェルフェアにこだわる

- ・動物愛護にこだわる
- ・敷き床にも工夫し、運動しやすい環境を与える
- ・ストレスを極限に排除

#### 5) 防疫対策にこだわる

- ・日本初、電解水を利用した防疫システム→酸性水でウイルスに対抗
- ・スタッフの防疫の徹底
- ・肥育期間は治療のための投薬をしない。
- ・林間放牧は、野生イノシシ等から守るために断念。
- ・農場周囲を高さ 3m の塀で囲う。

#### 6) テロワールにこだわる

- ・地域に根差す

- ・餌、敷材→地元産
- ・堆肥を還元
- ・地元小中学生に給食でふるまう
- ・ふるさと納税返礼品
- ・地域貢献

7) 直接販売にこだわる

- ・百貨店、飲食店、ECサイト、直営店等のチャンネル
- ・予約後に屠畜

8) バイオマス資源の循環にこだわる

- ・お茶粕や焙煎粕→食品・飲料工場
- ・おがくず→ハウスメーカー工場
- ・もみ殻→近隣の農家
- ・4日に一度、敷材を交換
- ・堆肥と混ぜ合わせ、良質な堆肥をつくる
- ・バイオマス資源の地域循環、肥料不足に貢献
- ・臭気対策に力を入れる→小まめな清掃、脱臭効果のある敷材
- ・堆肥を適宜、運び出す。
- ・豚糞は100%契約農地に還元
- ・トウモロコシを年2回収穫できるように検討

<感想>

(株)塚原牧場は、茨城県境町の一画にあった。周囲には住宅もあり、地域に溶け込んだ農場であった。梅山豚(メイシャントン)は日本に約100頭現存する中で、そこでは約半分を肥育している。中国由来の原種豚で、塚原農場独自のこだわりで梅山豚を守り、かつ生産までも自社で行っているとのことで、塚原社長をはじめご家族、社員が一体となった取り組みをしているのだと感じた。梅山豚をリスペクトし、動物愛護の観点からも敬愛している様子が伺えた。地域の農家(農業生産法人)と協力し、トウモロコシの収穫高は50トンを超える。その他の配合飼料や敷材も地元産を中心に大手食品・飲料メーカーやハウスメーカー工場から仕入れている。循環型農業の最先端を走られているように思える。梅山豚の性質を理解し、ストレスを限りなく排除しながらじっくり育て、飼育期間を一般の豚の約2倍の300日かけているそうだ。肉質は、ジューシーな赤身とキレのある脂身のバランスが絶妙な豚肉のようである。塚原牧場が、こだわりとプライドをもって取り組む姿勢は、とても頼もしい。飼料を貯蔵する倉庫には、今年収穫されたトウモロコシ、大麦や飼料米、食品工場から仕入れたパスタ麺の端材が保管されていた。どこを見ても清潔感と整理された環境に徹底したこだわりを更に感じた。臭気対策も特に意識しているようだ。とにかく小まめに清掃をすることが大切という。堆肥にするために手を抜かない作業を続けていた。農場を3mの防護壁が囲む。徹底した防疫をし、様々なウイルスから梅山豚を守るためだそうだ。何よりも、人から豚へウイルスを媒介させることの方が高

い確率で考えられるために、豚舎の出入り口では、その都度防護服を変えて入室するとのこと。このような様々なこだわりがあるからこそ高級な豚肉が誕生するのだと再認識させられた。未だ口にしていないその幻の豚肉を食べてみたいものだ。塚原社長の人柄にも素晴らしいさを感じた。素晴らしい視察ができたことを改めて感謝申し上げる。

#### 感想並びに意見

10月18日～20日までの3日間、福島県矢吹町、茨城県境町(株)塚原農場に視察・研修を行った。天気にも恵まれた3日間であった。

矢吹町での2日間は、町が子育てや教育に関する考え方、行動力に感銘を受けた。矢吹町は、2011年3月11日に東日本大震災の影響を受けた町でもある。私達を誘導してくれた氏家事務局長のご自宅も強い揺れに屈し、被災されたそうである。私たちは、復旧復興された矢吹町を見ているだけでは、震災の影響を受けた悲しみや苦勞を感じる事が出来なかったが、辛い過去も笑顔で話された矢吹町の皆様の人としての強さと優しさを心から感じた時間であった。三大開拓の町として今後もさらに深いつながりを保ち続けていきたいと思った。

塚原牧場での視察研修も、農業に対する考え方を一つ教わったように思う。特に、こだわりを持った取り組みの姿勢は、大きな感銘を受けた。こだわるためには、学ぶことが必要なのかもしれない。学ぶためには、気づきが必要なかもしれない。梅山豚を育てるために、塚原社長をはじめスタッフが常に目配り気配りを行っている。社長は、常に学ぶ姿勢をもち、スタッフは細かな部分まで気を遣う。そして気づいたら情報として共有する。常に梅山豚を愛護し、感謝を忘れない。我が子同様に育てるその姿勢は、違う業種にも適用できるような気がした。改めて敬意を表したいと思う。

3日間の行政視察は、新人議員の私に大きな学びと沢山の出会いを与えてくれた。意義のある3日間を共にした同僚議員、議会事務局の山元さんにも深く感謝の意を捧げます。

以上、復命します。



## 報 告 書

### 出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和5年10月18日	福島県 矢吹町	令和5年度文教産業常任委員会行
至 令和5年10月20日	茨城県 境町	政調査

令和 5年 10月 30日

報 告 者

職氏名 川南町議会議員 田中 宏政



復命事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

### 1 経過

1日目 15:00~15:50

矢吹小学校にて研修会(説明・質疑・施設見学)・・・教育振興課

16:10~17:00

矢吹中学校にて研修会(説明・質疑・施設見学)・・・教育振興課

2日目 9:00~10:30

複合施設(KOKOTTO)にて研修会(説明・質疑・施設見学)・・・都市整備課  
生涯学習課

10:40~11:00

未来くるやぶきにて研修会(施設見学)・・・都市整備課、生涯学習課

11:00~12:00

矢吹町役場にて議場見学

13:00~14:00

複合施設(KOKOTTO)にて公共交通推進事業・企業誘致促進事業について  
(説明・質疑)・・・まちづくり推進課、商工観光課

3日目 9:00~10:45

塚原ファームにて研修会(説明・質疑・施設見学)・・・(株)塚原牧場社長

## 2 感想並びに意見

### ◎矢吹小学校

矢吹小学校では、施設老朽化や各種設備の諸問題のため、平成24年に文部科学省の「スーパーエコスクールの実証事業」を受け、全面改修により機能的改善や質的向上を図りました。この事業は、学校運営に必要なエネルギーを実質ゼロとする「ゼロエネルギー化」を推進する取組です。また、構造体の長寿命化や内装の木質化等を併せて行い、建物機能や学習環境の向上を図っています。校舎に入ると木の香りが漂ってきて、落ち着いて学習できる環境だと感じることができます。また、トイレに行くのが楽しくなるようなワクワクするような清潔感のあるトイレが印象的であり、大いに参考になった。

### ◎矢吹中学校

矢吹中学校は、昭和40年に町内の矢吹中学校・中畑中学校・三神中学校が統合し、40年以上たった平成22年に新中学校の建設を着工し、平成23年3月11日にまず体育館が完成しました。午前中に卒業式が行われ、その日夕方には一転して避難所になるという誰もが予想し得ない事態となってしまったとの事です。そのことから矢吹中学校の完成は、「震災復興の証」と言えます。

立地的には高低差があるため設計は難しかったと思われるが、その高低差を生かし逆にメリットにしているように感じた。また、トイレ水には雨水を活用し、太陽光発電・備蓄システムも整備され、経費削減・環境問題にも配慮された構造であり、素晴らしい中学校であった。

### ◎複合施設【KOKOTTO】

公民館機能・図書館機能・観光交流機能・子育て世代活動支援機能を併せ持つ複合施設【KOKOTTO】。新たな交流の輪を広げ、開拓精神で中心市街地に賑わいを持たせ、夢や希望に満ちた未来を拓き、町を発展させていくイメージが込められ、まさに矢吹町のシンボルとなる施設であった。

施設整備のために、基本構想・基本計画・基本設計・実施設計と住民への説明がしっかりとなされていたことに感心し、大いに参考になった。

◎公共交通事業

矢吹町では、町民にとって利便性が高く効率的な公共交通体系づくりのため、行き活きたクシーとコミュニティバス(実証実験実行)の事業を展開している。また、AI活用型オンデマンドバスや自動運転バスの導入の検討も行い、超高齢化社会に向けた日常生活の利便性の増進を図っている。このようなことを本町でも参考にし、事業として注力していかなければならないと考えた。

◎塚原牧場(茨城県堺町)

塚原牧場では、【梅山豚】という原種豚を飼育し、餌にこだわり大麦・小麦・米・トウモロコシなど10種類の餌を混ぜ合わせ作っているとのことである。また、トウモロコシは自社で栽培・収穫・乾燥・保管しているということであった。堆肥は、自社のトウモロコシ畑で活用し、残りは契約農地に還元している。豚舎に防疫上入ることは出来なかったが、堆肥の臭いや豚の鳴き声がほとんど感じる事がなかった事は、驚きであった。餌にこだわり、敷材にこだわり、防疫対策にこだわり、長期飼育をする。梅山豚のため肉質のためには、「出来ることは何でもやる」という意気込みは大いに参考になり、大変有意義な視察であった。

# 報告書

## 出張日程

年月日	出張先	用務
自 令和5年10月18日	福島県 矢吹町	文教産業常任委員会行政調査
至 令和5年10月20日	茨城県 境町	

令和 一年 10月 30日

報告者

沼野 禎明

## 復命事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

### 1 経過

10月18日 福島県 矢吹町 視察 矢吹町学校  
矢吹町学校、校場にて米の収穫、タマネギの収穫、行政の座談会  
質問 説明あり。

10月19日 矢吹町の稲刈り作業に子供達が参加して遊ぶ事が  
でき、国が子供達に稲刈り作業に遊ぶ施設見学

10月20日 茨城県の境町の場所から、巻坂場 視察  
米の稲刈り（稲刈り機、小麦、小麦、倉庫の倉、米の貯蔵（米）  
作りの視察。

### 2 感想並びに意見

以下別紙に示す

## 矢吹小学校の現状

矢吹小学校は昭和44年に建設され、平成27年から28年大改修しました

改修工事費総額は約10億円、補助は3億3000万

狭い和式のトイレを広い洋式のトイレに改造し、トイレの横には子供たちが座ってしゃべれるようなスペースが用意されています

校舎の上には、太陽光パネルが約90キロ載せてあり

エアコン暖房はもちろん校舎全体の電気量の削減に役に立っています

教室、木材をたくさん使い、子供に優しい環境になっています

## 茨城県、境町の養豚、農場の飼料自給率を高める為の取り組み

塚原ファームは、自社農場でとうもろこしの生産をしています・とうもろこしの子実だけを収穫し、自社工場にて乾燥袋詰め、自社倉庫で1時保管、自社工場で粉砕、混合、工場から搬出、農場タンクへ搬入しています

収穫してみないとわからないのが、子実とうもろこしです、台風や大雨で全滅することもありました、2023年は収穫量が過去最高に近かったです。弊社ではとうもろこしの割合を全体の20%程度に抑えて、不作になっても慌てない体制をとっています、大麦、小麦、飼料米などで不足分を補いながら進めています、また近隣の工場が出る食パンの耳、パスタの端切、らも利用しています

川南町の場合は、とうもろこしの収穫は1回目は問題ないと思いますが、2回目は台風時期と重なり非常に難しいと思います。2回目の作物は台風につよい作物を考える必要があると思います。作物を大量に生産しても工場がないとダメなので、行政が国の補助を受けて、乾燥工場、保管、倉庫、収穫用の大型機械を用意する必要があると思います

## 矢吹町乗り合い、タクシーの現状

70歳以上が登録すれば利用できます

登録者は1ヵ月に10枚の利用券を貰います。タクシーを利用するときに、町内であれば1回500円で利用できます。これに同乗者が2人いれば負担は500円÷2ですから、1人250円です。タクシーの運行時間は毎日8時から夕方の6時までです土曜、日曜も運行しています。昨年度乗り合いタクシーの町の負担分は約400万です。登録者は約500名です。私たちが考えているより町の負担は意外と少ない金額でした。乗り合いタクシーを利用する利用者は大変助かっていると聞くことを聞いています。

高齢者も免許返納しやすくなり、交通事故の心配もなくなります。家族も大変喜んでいそうです。

## 矢吹中学校の現状

矢吹中学校は昭和40年に町内の矢吹中学校、中畑中学校、三上中学校が統合し、昭和43年から町内唯一の中学校となりました

校舎の老朽化と耐震性の問題があり、平成22年2月から工事着工し、校舎及び体育館の完成後、平成23年3月11日に東日本大震災が発生しました

特に体育館は卒業式を新しい体育館で行いたいとのことで、完成を急ぎ3月11日の午前中に卒業式を迎え、喜びに包まれたのもつかの間午後にはいってんして避難所になると言う誰もが予想し得ない事態となりました  
小学校も中学校の旧校舎も東日本震災では倒壊しなかったということでした

矢吹中学校の施設でびっくりしたのは、屋内プールができていたということでした

東北ということで、やはり寒さがあるので屋内にしたそうです。屋内だと2ヶ月余分に授業ができるそうです。

屋上には太陽光パネルが90キロ設置されており、エアコン、暖房はもちろん校舎全体の電気量の削減に貢献しています・蓄電池も用意されており、非常時に対応できるようになっています。小学校も中学校もトイレが洋式でとてもきれいでした。

川南の小中学校のトイレは臭いもあったりして、早く綺麗な洋式のトイレにしたいなと思いました

## 報 告 書

### 出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 令和5年10月18日 至 令和5年10月20日	福島県 矢吹町 茨城県 境町	令和5年度文教産業常任委員会行政調査

令和 5 年 10 月 30 日

報 告 者

職氏名 川南町議会議員 三原明美

㊞

### 復命事項（1. 経過、2. 感想並びに意見）

#### 1 経過

- 10月18日 矢吹町歓迎セレモニー（14：30～14：50）矢吹町役場
- 10月18日 矢吹小学校（15：00～15：50）教育振興課
- 10月18日 矢吹中学校（16：10～17：00）教育振興課
- 10月19日 複合施設 KOKOTTO（9：00～10：30）都市整備課・生涯学習課  
未来くるやぶき（9：00～10：30）子育て支援課
- 10月19日 未来くるやぶき施設見学（10：40～11：00）子育て支援課
- 10月19日 議場見学（11：00～12：00）議会事務局
- 10月19日 公共交通推進事業について（13：00～13：30）まちづくり推進課
- 10月19日 企業誘致促進事業について（13：30～14：00）商工観光課

## 2 感想並びに意見

1 矢吹小学校 ●年間エネルギー消費を実質ゼロとするゼロエネルギー化を推進。  
校舎の屋上に太陽光パネルがずらり。実質灯油代が10分の1になっている。

川南も小中学校に太陽光を利用すると随分、経費削減になるのでは。学校施設に使える補助金があるのではないか。

●タブレットによる学習では、「覚える」から「調べて考える表現する」へと変化していくツールの一つになっている。今からは、覚えなくてもボタン一つ押すだけで情報がすぐに得られる。学校の授業も変化しているのを感じた。川南の場合どのようにタブレットを使用しているのか。

2 矢吹中学校 ●昭和43年3つの中学校が統合して1つの中学校に。

校舎の老朽化と耐震の課題があり平成22年改築工事が始まり第1工事として校舎と体育館が完成。その直後に東日本大震災。完成後の校舎、体育館は耐震がしてあったので大きな被害を受けることはなかったとのこと。川南は、まず一日も早く統合を。

### 3 複合施設 (KOKOTTO) ここっと

●こ=子育て世代活動支援

●こ=公民館

●っ=集う

●と=図書館

令和2年10月オープン。外見も内見ともとても綺麗で明るい。

いろいろな機能が一つの場所に集まっていて便利。また200人程度の移動客席、収納型稼働ステージがあり、利用形態に対応出来るのは使用する人には便利だし、嬉しい。川南にも欲しい。図書館もそう大きくはないが窓が大きくて明るい。電気代の節約に。

### 4 未来くるステーション

●「遊びを通した子育て」をコンセプトとして、室内には乳幼児から小学校低学年、保護者にとって遊べる遊具がいっぱい。また同じ子育てをしている方々と友達が出来き楽しく子育てをしている様子がよく分かった。川南のこどもんと同じ形態のようだ。

### 5 公共交通推進事業

●矢吹町には行き活きタクシー利用料金助成事業と

コミュニティバス実証実験運行について研修したが、どこでも移動手段を持たない高齢者の日常生活の利便性確保をどのようにやって

いくのかが課題になっていく。行き活きタクシーは、利用される方は役場に登録すると、ワンコイン500円で町内を移動出来る。(利用条件



は一月 10 回まで利用できる。) 川南町の場合もコミュニティバス便がもっと増えると高齢者の皆さんの利用が増えるのではないかと思う。

#### 6 企業誘致促進事業

●矢吹町には足を使った企業誘致を町長、副町長が年 2 回以上トップセールスしている。川南町もおおいにトップセールスをしていただき企業が多く来てくれることを願う。

そしてとても感心したのは、職員が「御用聞き」のようなことをやっていること。町内事業所へ訪問して、追加投資情報収集、土地等の相談、また道路現地の要望などを自ら来てくれるのは、事業所にとって心強いと思う。ぜひ川南にもやって欲しい事業。

#### (株) 塚原ファーム (茨城県境町)

●養豚経営における子実とうもろこし利用の取り組みについて住宅地のどまん中にある養豚場。まず臭いがしない。なぜ？  
ここの豚は中国から来た梅山豚で、日本には 100 頭しかいない希少種。塚原ファームさんでは、50 頭飼育。それ以上は増やさないとのこと。私が 9 月の一般質問でした家畜の適応頭数にほかならないと思った。餌は手作り。その中にとうもろこしの子実を入れる。また、パンのみみ、パスタ麺など 10 種類の餌を入れ込み、塚原さん独特の餌が出来上がる。養豚場が近くにあるのにも関わらず住宅が現在も増えている。やはり臭いが出てないのは、適応頭数、餌、徹底した掃除。他にも感心することが山ほどあった。  
ぜひ川南町役場、JA さんなどに研修に行つて欲しいと思う。

最後に 3 日間の研修は私にとってこれからの一般質問に「大いに役に立つ事ばかりでした。

そして矢吹町の役場の方々、議会の皆様、塚原ファームの社長を始めスタッフの皆様には、大変お世話になりました。以上復命いたします。

## 報 告 書

出張日程

年 月 日	出 張 先	用 務
自 R5 年 10 月 18 日 至 R5 年 10 月 20 日	福島県 矢吹町 茨城県 境町	令和 5 年度文教産業常任委員会 行政調査

令和 5 年 10 月 30 日

報 告 者 職氏名 徳弘美津子

印

復命事項 (1. 経過、2. 感想並びに意見)

### 1. 経過

10/18・・・宮崎空港⇒伊丹⇒福島空港⇒矢吹町

10/19・・・矢吹町視察・研修⇒新幹線⇒茨城県 宿泊

10/20・・・茨城県猿島郡堺町 塚原牧場視察・研修⇒羽田⇒宮崎空港⇒帰町

10 月 18・19・20 日矢吹町・堺町にて 3 日間にわたり行政調査を行う

### I 矢吹小学校・矢吹中学校視察・・・18 日

#### 矢吹小学校(鉄筋 3 階建て)

- ・東日本大震災時(平成 23 年 3 月)では耐震工事が進んではおり校舎の構造物には影響はなかった。
- ・西校舎が昭和 44 年(1969 年)、東校舎が昭和 57 年(1982 年)に竣工し老朽化が進んでいた。そこで仮の校舎を作ることなく西校舎平成 26 年 10 月から 1 年かけて改修、そして平成 27 年 9 月に東校舎を 1 年かけて改修、改修期間中は各教室を移動して活用した。
- ・改修した校舎は「スーパーエコスクール実証事業(SE 事業)」の採択を受け工事総額 10 億 7494 万 2510 円となり学校施設環境改善交付金 1/3 事業(3 億 3207 万 6 千円)をうけた。
- ・生徒数については中心部に近い善郷小学校の減少は微減だが、矢吹小学校含み 3 校は人口減とスライドするように減少化が半減となっている。(平成 2 年 470 名⇒令和 2 年 195 名)

- ・SE事業…①エネルギーの効率的・効果的な利用を促進するエコ改修による省エネルギー ②太陽光発電などの再生可能エネルギー導入による創エネルギーの組み合わせで学校に必要なエネルギーを実質0とする「ゼロエネルギー」を推進する。
- ・改修内容…断熱改修・建物躯体の長寿命化・内装木質化、美装による環境の向上・外装劣化補修、美化・屋上防水全面更新・太陽光発電システム(90 ㎡)・発電、使用エネルギー可視化による管理・電気設備(LED照明、コンセント)、機械設備器具(節水型便器、換気扇)の全面交換
- ・タブレット学習、AIドリル(すららドリル)活用

### 矢吹中学校

- ・昭和40年に3中学校が統合し町内唯一の中学校となった。
- ・校舎の老朽化と耐震性の課題から中学校整備委員会を設立し平成21年「第5次矢吹町まちづくり総合計画」の主要事業に位置付け「時代を担う町の宝である子供達のため」に矢吹中学校の改築を決定した。
- ・平成12年から検討を重ね、平成22年2月から工事着工し第1期工事として校舎・体育館の完成後平成23年3月11日に新体育館で卒業式を迎えた。そして卒業式を終えた同日に震災があり一転して体育館は避難所になった。もちろん完成後の校舎・体育館は被害を受けることがなかった。
- ・生徒数は平成2年(865名)からの令和2年(450名)も30年間で約5割減少し学級数も22学級から15学教と学校規模も生徒数の減少を受けた。
- ・屋内プールもあり水泳部も活躍している。

#### 【感想】

小学校…大規模改修時に仮校舎をつくらず。各教室等を活用し二年かけて改修工事を終了された。移動に伴う作業に保護者の方々の力を頂いたと聞いた。校舎内も木の温かみのある校舎内でとても落ち着く空間になっていた。SE事業を取り入れることで日常的な光熱費の軽減もあるが、補助金も活用出来ている事が大きい。

中学校…震災前に建設された校舎も、木のかおる校舎で広い空間が保たれている。最新の耐震であることから被害もなく、震災後に普通に学校が再開されたことはこれからの川南町の中学校再編にどのように考えて行くのか？また敷地を活用した校舎はまるで大学のキャンパスのように最新の設備と環境を与えている。唯一の中学校であることから学びを担保するために新中学校校舎はやはり必要と感じる「時代を担う町の宝である子供達のため」それは日本中が考えること。

小・中学校…両校とも川南で最近言われるトイレについては、このようなトイレを拝見すると、果たして和式を洋式にするだけで解決するものではないと感じる。中央に位置している善郷小学校は生徒数が微減で地の利がいい所に人は集まることは明確である。

## II 矢吹町複合施設「KOKOTTO(ここっと)」…19日

- ・意味…こ⇒子育て世代活動支援 こ⇒公民館 つ⇒集う と⇒図書館
- ・建設費…14億590万1200円(補助金6億2148万円44.2%)

- ・施設の規模・・・敷地 3,608 m<sup>2</sup>、建築面積 2,151 m<sup>2</sup>、延べ面積 3,004 m<sup>2</sup>
- ・開館まで・・・平成 27 年都市再生整備計画から始まり、令和 3 年 10 月にオープン
- ・館内の施設
  - ① 中央公民館・・・町直営(館長 1 人・町職員 1 人・他 4 名)  
交流やイベントが出来る空間 KOKOTTO ホール(移動観客席及び収納型移動ステージ約 200 名収容)・他 9 諸室
  - ② 図書館・・・業務委託(ナカバヤシ株式会社 館長 1 人・職員 10 名)  
最大蔵書数 10 万冊
  - ③ 未来くるステーション・・・業務委託(NPO 法人ふれっしゅ・ステージ)  
就学前のプレイスペース・子育て相談・ファミリーサポート事業
  - ④ 観光交流施設・・・200 年前につくられた大屋台の収蔵・展示。  
2 年に 1 度開催される秋祭りに使われ町中を運行
- ・経過・・・基本構想・基本計画・基本設計・実施設計まで平成 29 年から平成 31 年に 4 回にわたり住民説明会(報告会)を開き、その都度毎に住民の声を聞き意見の取り入れなどしていった。
- ・高校生とワークショップ・・・オブジェのデザインや館内の色彩など開拓の町、矢吹町をイメージする野菜の色を取り入れデザインを考えていった。

#### 【感想】

建設に至るまでに各段階で住民説明会を開き、その都度意見を掌握し対応をされてきた。総合福祉センターも町民を巻き込んで、愛称やオブジェなどにかかわって行くべきではなかったのかと考える。

### Ⅲ 未来くるやぶき・・・屋内外運動場

- ・施設愛称・・・愛称を公募し当時小学校 4 年生がネーミング  
意味⇒矢吹町に素敵な未来が来るように。子供達が未来に向けてがんばるように。
- ・建設費・・・工事費 5 億 1823 万 8 千円(10/10 の補助率・・・子ども元気復活交付金)  
委託費 3699 万円(10/10 の補助率・・・子ども元気復活交付金)  
遊具費 4659 面円(2/3 の補助率・・・屋内遊び場確保事業)  
東日本大震災で福島原子力発電の事故により子どもが屋外で遊びや運動が減少し子どもの運動機会の確保と乳児から小学低学年そして保護者が放射能の影響を気にせず遊び場の提供で建設。矢吹町は福島原発からの距離は 200 キロだが、いち早く職員がこの補助金を見つけ？手をあげた。
- ・経緯・・・平成 25 年事業計画策定・平成 26 年実施設計・建設・平成 27 年 3 月オープン
- ・施設の概要・・・①体育館棟 (無料)  
屋内遊び場、授乳コーナー、  
利用対象者・・・0 歳から小学 3 年生で保護者同伴(1 人につき児童 3 人まで)  
利用時間・・・AM10:00～PM5:00 3 クールで 1 時間 30 分の入

れ替え

子育て支援センター 体育館棟の2階

②フットサルコート 利用料⇒町内1時間3,000円+照明が必要な場合は同800円

・施設運営…指定管理者制度 契約額2718万5379円

人件費・消耗品費・光熱水費・修繕費・広告料・通信運搬費・施設賠償保険・手数料・業務委託料・提案事業・AEDリース・業務委託

・建設後の反響…①平成27年オープン以来年間5万人の利用。令和3年11月に来場者数30万人達成。(令和5年9月末現在359,208人)

②JR矢吹駅のそばにあることから町外の来場者も多く、中心市街地の賑わい創出の場として効果が高い。

③体育館内も広く子どもが思いっきり知り回れ大人も楽しめる施設になっている。

⑤ 町外の利用者も無料と言うこともあり、令和4年度の利用者割合は町内利用者28%に対し町外が72%となっている。

#### 【感想】

福島原発にかかわる補助金100%を使い、町内外で活用された施設で、研修の日も平日にかかわらず沢山の親子連れが楽しんでた。地理的に駅のそばにあることから、町外の利用者が多くいることはまさにこの施設の運用は大成功と考える。この補助事業を取り入れる時、職員がいち早く手を上げたと聞く。アンテナを張った取組みで情報活用を川南にもさらにはかっていたいただきたい。

## IV公共交通推進事業

矢吹町における公共交通事業について話を伺った

### ・生き活きタクシー

- ① 70歳以上の高齢者に民間タクシーを利用した移動に伴う費用の一部を補助
- ② 令和2年4月から実証実験をへて開始
- ③ 利用回数を月に10回とし1乗車あたりの自己負担を500円とし差額を町が助成するもの。
- ④ 助成金額は令和4年度で約400万円、登録者数は500人を超えている。

### ・コミュニティバス

- ① 町民にとって利便性が高く、効率的な公共交通体系づくりの為に令和4年12月から「矢吹町コミュニティバス」として実証実験運行している。
- ② 駅から団地や集会所など4ルートあり各ルート週2回の運行で午前1本、帰り3本となっている。
- ③ 利用は月平均150人でアンケートでは停留場が遠い、利用したい時間にバスが来ないなどある。

### ・令和5年9月に新たに矢吹町地域公共交通計画を策定

- ① 「行きたい時に、行きたい場所へ」といった多様なニーズに対応するAIを活用したオンデマンドバスの導入し移動手段の確保を図る。

- ② アプリや電話での予約を本にリアルタイムに最適配車を行い最適なルートを乗り合いをしつつ概ね希望通りの移動を目指す。
- ③ 自動運転バスの導入も検討とのこと。

**【感想】**

高齢者に対する交通手段については、どの自治体も喫緊の課題で、矢吹町もまだまだこれから考察されていく。今後は「ライドシェア」の動きも加速するのではないかと考えたとき、今後は時間の空いた方が隙間時間に高齢者の方の手助けになるような情報を共有できないか？川南町で先駆けて組織作りが出来ないか。そのようなグループを作ってみたいと考える。

**V 企業誘致促進事業**

**・矢吹町の位置**

- ① 東京・仙台から 200 km圏内(1 日で往復出来る)
- ② 国道・高速へのアクセスの良さ
- ③ 福島空港まで車で 15 分
- ④ 矢吹駅から新幹線駅の新白川駅まで約 20 分

**・企業誘致の特徴**

- ① 年 2 回以上のトップセールス
- ② 町内事業所への訪問活動
- ③ 町独自の優遇策

進出準備奨励金・企業立地奨励金・緑地、環境施設面積の緩和・合併処理浄化槽設置補助

**・既存企業への支援策**

- ① 町内事業所へ道路や周辺環境などの要望に可能な限り応える努力
- ② 「やぶき経営懇話会」の設置

42 事業所で構成・視察研修や懇親会を実施・交流の場としてビジネスマッチングの機会

創出・令和 2 年「チームやぶき」を設立し会員企業(8 社)が主となり、水素関連産業に

新規参入を目指す。

**・課題**

- ① 立地区画の確保・・・令和 4 年に工業団地が完売し、即時に建設可能な立地区画がない。

令和 5 年度より産業立地基礎調査を開始、町有地・民地(農地含む)を問わず調査。法的課題の洗い出し・造成費用の試算

- ② 労働力不足・・・新規高卒者の求職者 3547 人に対し求人数 8917 人(令和 5 年 3 月)
  - 合同就職説明会の実施・高校生職場体験受入れ・地元高校への支援増強を検討(企業版ふるさと納税を活用し基金を設置し地元高校の支援強化を行う)

外国人技能実習生の増加(外国人が住みやすいまちづくり施策の

## 検討)

### 【感想】

関東圏内に日帰りで行ける地の利の企業誘致は、とても陸の孤島と言われる我が町は勝てないが、これから企業にとって何が必要なのか？ 終身雇用も求められない昨今、田舎ならではの産業がないものか？ 川南でもいま取り組んでいる起業する若者の支援は今後商店街の皆様のご理解が必要と聞く。住居と店舗一体型の現状ではトイレを共有できないと聞く。町である程度の距離毎にトイレを設置などする事は出来ないものか？

それから現状の企業にたいし日々のコミュニケーションをはかり、企業にとっての労働力不足や環境等の問題点を改善していくことは今後大事な事と考える。町長や担当職員の方がどれくらい企業訪問しているのかわからないが、さらに活発な活動を求める。高校生の求人も行政もかわりながら労働力確保に尽力してほしい。

## VI 茨城県猿島郡埴町 塚原牧場視察・・・20日

### 自給飼料についての研修

#### ① 梅山豚

塚原牧場は中国原種の梅山豚(メイシャントン)と言われ、最高級の豚肉とされている。

国内でも民間で唯一飼育され農水省の直営牧場と合わせ 100 頭前後しか飼育されていない。梅山豚は世界一の多産でこの塚原牧場では当時ギネス記録の 33 頭生まれた。

#### ② 自給飼料へのこだわり

輸入穀物には防カビ剤や防虫剤などのポストハーベストが含まれている事から、塚原牧場では毎週、自社でブレンドした 10 種類の飼料を配合している。(大豆粕・小麦・飼料米・トウモロコシ・脱脂米ぬか・大麦・パスタ・パン粉他)トウモロコシも当初は自社だけで栽培収穫していたが、近隣の農家も作り始めたことでそれを買取りしている。

#### ③ バイオマス資源の循環

敷材…お茶粕・焙煎粕・おが屑・粃殻を 4 日に 1 度の割合で入れ替える。それらは食品・飲料メーカー工場から引き取る。

堆肥…堆肥舎で攪拌切り返しし発酵温度を上げて良質なたい肥を製造、有機質肥料として自社のトウモロコシ畑に還元し近隣農家に提供。

肥料不足…世界的な肥料不足に貢献していく。

#### ④ 肉質

一般の豚は 5 ヶ月程度で出荷するところ、梅山豚は 10 ヶ月かける長期飼育をする事で赤身は細かな霜降りが入り、肉汁豊かで細胞のしっかりしたドリップの少ない肉質となる。

#### ⑤ アニマルウエルフェア(動物愛護)

命を頂くことから、自由に動き回るスペースを確保し滑らないクッション性のあるお茶粕や粃殻などの敷材を敷いてのんびり過ごす。自然の光や風を感じ動物本来の本能を保つ。

⑥ 防疫対策

日本で初めて養豚で電解水を利用した防疫システムを採用。酸性水の殺菌力でウイルスに対抗。

飼育期間(約 100 日齢～出荷 300 日齢)は治療のための投薬をしない。最近のトンコレラの防疫から 20 年以上にわたってきた林間放牧は断念し農場周囲は 3 メートルの塀で囲っている。

⑦ 地域に根ざす(テロワール)

餌・敷材は地元から調達。堆肥も地元還元。毎月 2000 人の小中学校の給食に食材提供・ふるさと納税返礼品している。

⑧ 直接販売

百貨店・飲食店・EC サイト・直営店で販売。予約注文をうけて契約先で屠畜してチルドで発送。

【感想】

日本でも貴重な種類の育成なので、川南町のように大規模な養豚農家にこの農場の取組みが取り入れられることはないが、環境に配慮した取組みは今後町を挙げて取り組んで欲しい。塚原牧場の取組みは規模が違うと言われればそれまでだが、飼料は敷材も考慮し、ほとんど臭いもなく近隣に民家が未密集している環境。

人口が減少する中で消費量も大幅に減少することはゆがめない。量より質を求める畜産農家が自給飼料から排泄物による川南町の環境問題を考えていくことがこれからさらに拍車が掛かることだと感じる。畜産による臭い対策は行政をあげてさらに取り組んで欲しい。町内でも差別化して飼料にも配慮してすでに自社ブランド販売し販路を拡大している事業所が多くあることは当たり前ではないことを町民にも理解して欲しいと考える。今後とも畜産農家の販路拡大や臭い対策に講じる畜産農家に対し行政もさらに支援していただきたい。

三大開拓交流の矢吹町の施設案内・塚原牧場など中身の濃い研修でした。事務局の山本さんのご苦勞は計り知れません。また矢吹町の議会事務局長には 2 日間精力的に案内していただきました。矢吹町議会の皆様にも歓迎していただきました。文教産業常任委員会委員一同ありがたくこの研修を終えることが出来ました。ありがとうございました。